

# かけはし

青の1組

～秋のダイナミックワールド号～

「秋のダイナミックワールド」において、青の1組で展開されている遊び、その遊びが始まったなどご紹介させていただきます。各クラスの「かけはし」は、本園 Web サイト「園からのお便り」のページにも掲載する予定です。よろしければ、ぜひ、他クラスの遊びの様子もご覧ください。

『くつやと小びと』の歌をうたいすすめていくと、数名の子どもたちが身近な素材を使ってお話のなかに出てくる靴や靴づくりの道具、小びとなどをつくりだしました。すると、ある子が「自分たちが小びとになろうよ」と言いました。自分たちが小びとなら…とえんぴつやはさみ、針などを大きくつくりだした子どもたち。保育室を小びとの世界にしようと物語の世界が広がっていきました。

## ★ 小びとのくつやさん ★

空き容器を足にはめて歩き出した友達の姿に「靴みたい」という声があがったことから生まれた遊び。



(くつやさんは) 貧乏暮らしだけど、おうちが可愛くしよう!!

足にはまりやすい素材を土台にしなが、いろいろな素材を組み合わせ、靴づくりを始めた子どもたち。素材によって、滑りやすい、ふわふわしてるなど、感触を楽しんでいます。

くつやの家もあつたら…と段ボールでつくりました。その壁に、カーテンを付けたり、歌詞に出てくる動物を描いたり、楽しい雰囲気の家になるよう、みんなでアイデアを出し合い、思い思いに飾っています。



みんなが小びとになってくつやに入れるよう、くつやの入口に、『通ると小びとになれるトンネル』も作成。トンネルを通ると、小びとの帽子が落ちてきてかぶれるように工夫しています。

## ★ 金貨飛ばしゲーム ★

ペットボトルのキャップを指で弾いて飛ばし遊び始めたことがきっかけで生まれた遊び。



ペットボトルのキャップを指で弾いて飛ばしだした子どもたち。キャップがいろいろなところに転がってしまい、拾い集めることがたいへんだったことをきっかけに、的をつくり入れ始めました。



的になる容器に色を塗り、「ピンクに(キャップが)入ったら可愛いポーズして」など入った容器の色でどんなポーズをするか決め、体で表現するというルールも生まれました。



くつやで靴を買う友達の姿を見たのをきっかけに、お金が必要と感じた子どもたち。歌詞に「金貨」が出てくることもあり、キャップにアルミホイルを巻き、油性ペンで色をつけ、きらきら光る金貨に。

## ★ えんぴつ立てゲーム ★

小びとが靴づくりに使うえんぴつをラップの芯でつくっていた子どもたち。たくさんあったラップの芯を床に立てて遊び始めたことがきっかけで生まれた遊び。



ラップの芯をつなげ、折り紙を巻いたり、ペンで絵や模様を描いたりして、大きなえんぴつづくりが始まりました。



すると、えんぴつづくりに使うラップの芯を、いくつも立てて遊びだしました。時間を決め、時間内に全部の芯を立てるという遊びへと発展していきました。



芯の長短によってバランスをとるのが難しいことを発見。えんぴつ以外にも、クレヨンやマッキーペンを芯でつくりゲームに使いました。

## ★ フリスビー・針でキャッチ ★

紙皿をフリスビーのように飛ばしだしたことをきっかけに始まった遊び。一学期のスポーツデーでしたフリスビーの経験と結びつけながら、本物のフリスビーのようによく飛ばすためにはどうしたらよいか、いろいろと試しています。



紙皿をフリスビーのように投げ始めた子どもたち。紙皿以外の素材も使いながら、本物のようにもっと遠くまで飛ばしたいと試行錯誤を始めました。



本物の形に似せたり、重さや風が通る隙間をつくる工夫をしたりしていききました。気づいたことを伝え合い、様々な発見をしていきました。



試行錯誤するなかで紙皿だけでなく、新聞紙を輪っかにして飛ばし、それをラップの芯でキャッチする遊びも生まれていきました。

## ★ 小びとを運ぼう ★

大きいはさみやとんかちを使って、何か面白い遊びをしたいという声をきっかけに生まれた遊び。



以前から、身近な素材を使って小びとやそのお家をつくらしていた子どもたち。



自分たちが小びとに見えるよう、大きなはさみやとんかちもつくりました。



その大きなはさみやとんかちを使って、つくった小びとを落とさないように運ぶ遊びへと発展していきました。